

こころ便り

第277号
令和5年4月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kin@nami@shingu.co.jp
電話0791-755-1212



新宮運送ホームページ

憤る

桜が山から里まで一気に咲き始めて、春本番となつてまいりました。季節の節目を刻む新年度も始まります。今年はマスクを外すという懐かしい場面があちこちで見られるのではないかと思います。

新型コロナが武漢ウイルスとして発症してから丸三年を経て、元の状態には戻れないこともたくさんあるはず。何よりも感染で、もしくはワクチン接種で喪われていった命を取り戻すことはできません。

時代は後戻りすることはできません。前に進むしかないのですが、同じことを別の形で繰り返していくことはよくあることです。歴史に学べと言われるのも、そういう経験を伝えて活かすことだと私は捉えています。パンデミックという表現で感染拡大を防ぐために呼び掛けていました。実は、これは人間のうわさ話とよく似ていると感じておりました。知らないうちに口から口へと広がっていく事実ではない噂話がいつの間にか本当の話にされてしまうことは体験した人でないとその悔しさを表現できないと思います。

他人の不幸は蜜の味と言われるくらいに人の悪いことを取り上げて、さも、楽しいことがあったかのように「知ってる？」と問い掛けていくのです。

井戸端会議に集まる人ではなく、ネット情報だけでもなく新聞やテレビが広めていく時代となりました。お互い被害者になることがあったとしたら、世の中が嫌になってしまふのではないかと思えるくらい、弱いものをイジメていく世の中です。その中であつて、凜として立つことはとても難しいことなのですが、人を憎むのではなく憤りを持って世の中を立て直すという決意を新たにしてみたい。いや、そこまでできなくてもせめて、自分からはうわさ話は広げないと口をつぐんでもらいたいと思うのです。

バカなマスコミもいつか気づくときがやってくる。日本人として恥ずかしくない大和魂をしっかりと持ち続けなくてはなりません。遺伝子としてあなたの中にも伝わっているはず。

「和を以て貴しと為す」

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學國史 上巻

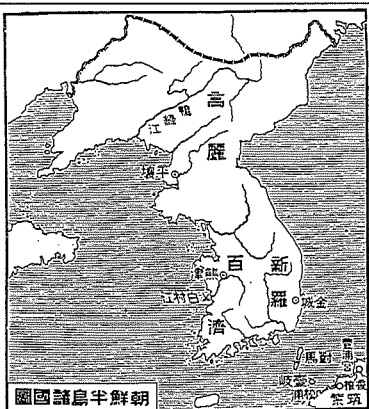
NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただいております。

第三日本武尊 ③

尊はたふとき御身を以て、兵士と共になんぎをしのびたまひ少年の御時より、西に東にわるものどもを討ちて、少しも御身をやすめたまふひまなくして、かくれたまひしなり。されど其の御てがらにより、遠方まで平ぎて、世の中よくをさまれり。尊の御子、後に至りて天皇の御位に即きたまふ。之を 四代 仲哀天皇と申す。

第四神功皇后 ①

仲哀天皇の皇后を神功皇后と申し、御生れつき賢くをしくましませり。天皇の御代に熊襲またをむきしかば、天皇は、皇后と共に九州にみゆきして之を討ちたまひしが、いまだ平がざるうちに、かくれたまへり。此の頃朝鮮には新羅、百濟、高麗の三國ありて、之を三韓といへり。中にも新羅は最も我が國に近く、且その勢強かりき。されば皇后は、まづ新羅をしたがへなば、熊襲はおのづから平がんとおぼしめし、武内宿禰とはかり、御みづから兵をひきゐて新羅を討ちたまふ。時に紀元八百六十年なり。



新羅を討ちたまふ三韓
熊襲を討ちたまふ
尊の御てがら

つづく